

第 21 回広島市障害者陸上競技大会申し合わせ事項および注意事項

本大会は、令和6年度の（公財）日本陸上競技連盟競技規則に準じ、全国障害者スポーツ大会競技規則および本大会申し合わせ事項に則り行う。

1 招集

- 1) 招集所は陸上競技場西側の「マラソンゲート」に設ける。
- 2) 競技者は競技開始 30 分前から 20 分前までに点呼を受ける。招集終了時刻に遅れた競技者は棄権したものとみなし、競技に出場できない。また代理は認めない。
- 3) 競技間が 60 分未満の場合は、1 種目目の招集時に 2 種目目の招集完了とする。競技終了後、迅速に次の競技に行くこと。
- 4) 視覚障害の区分24に属するものは、競技エリアで光を通さないアイマスク・アイシェードを装着しなければならない。招集所で審判員に確認を受ける必要がある。
- 5) リレー種目に出場するチームは、13:00 までにオーダー用紙をトラック招集受付に提出する。（オーダー用紙は受付あるいは招集受付にて配布する）

2 競技者の服装

- 1) 競技を行うときは、競技用の服装(ランニングシャツ、トレーニングシャツ等)を着用しなければならない。
- 2) 競技に使用する靴は、日本陸上競技連盟規則の定めるところとする。(全天候型スパイクシューズを認める)
- 3) ナンバーカードは、主催者が交付したしたものを競技用服装の上衣の胸部及び背部に付ける。ただし、走り高跳びの競技者は胸部、背部のどちらかに付けばよいこととし、車いす使用競技者は、車いすの見やすい位置に取り付けてもよい。
- 4) 写真判定装置を使用するので、競走競技者はレーンナンバーカードを指定された場所につけなければならない。

3 介助者・通訳者

- 1) 事前申請により、競技者は競技エリアに介助を同伴することができる。介助者は、ビブスを受付で受け取り、ビブス着用の上、競技者ととともに競技場内に入場すること。
- 2) 視覚と聴覚の障害が重複している競技者は、事前申請により介助者とは別に通訳者1名を競技エリアに同伴できる。受付で専用の名札を受け取り、競技者ととともに競技場内に入場すること。
- 3) 介助者・通訳者は、競技に関するいかなる指導・助言もしてはならない。助力行為が発覚した場合は失格となる。
- 4) 介助者・通訳者の服装は、運動靴および運動着とする。
- 5) 介助者および通訳者等は、カメラ、携帯電話等を競技場内で使用することはできない。
- 6) 全競技終了後、ビブス、通訳者用の名札はナンバーカードとともに大会本部・エントランスホール前の箱にすみやかに返却する。

4 トラック競技

- 1) 50m走についてはスタンディングスタートのみとする。またその場合スターティングブロックを使用できない。車いす使用の場合は、日常生活用とする。
- 2) 100m、200m、400m 走においてはクラウチングスタートをしなくてもよく、スターティングブロックを

使用しなくてもよい。スタンディングスタートの場合は、スターティングブロックを使用できない。

- 3) 車いすおよび電動車いす使用者の順位は、胴体(トルソー)ではなく、先に到達した車輪の車軸がフィニッシュラインに到達したことで決める。
- 4) 24 区分の 50m 走を除き、視覚障害者は伴走者をつけることができる。競技者と伴走者は非伸縮性の紐などを使ったガイドロープ(50cm以内)を持ち競技する。スタートからゴールまで紐を離してはならないこととする。フィニッシュで競技者の斜め後ろに位置しなかった場合は、競技者の失格とする。
ただし、視覚と聴覚の障害が重複している競技者の伴走者は、スタートのピストル音を競技者に伝えるため、ピストル音の直後のみ競技者を引っ張ったり、押ししたりする行為は認められる。なお、この行為は助力とはみなさないが、スタートのピストル音を競技者に伝えた後に競技者を引っ張るなどの推進を助ける行為をした場合は助力となる。
- 5) 出発合図後、1 分を経過しても走り出さない競技者は失格とする。

5 フィールド競技

- 1) フィールド競技の場合、練習は試技順に1回を原則とする。競技運営の関係上、練習時間を取らずに直接競技に入ることがある。(各自の責任によりウォーミングアップをしっかりと行っておくこと)
- 2) 走高跳を除くフィールド競技は3回まで試技が許される。
- 3) 視覚障害者の走り幅跳びのみ、声や音源による援助は認められる。
- 4) 立ち幅跳びの制限時間は1分とする。
- 5) 走り高跳びのバーの最初の高さは1mとする。
- 6) 投てき使用する競技用具は、主催者が用意したものとする。
- 7) 砲丸投はローテーションで行い、ソフトボール投げ、ジャベリックスローは3回連続して投げるものとする。(車いす使用者の場合は除く) なお、1回の試技時間は用具を手渡した時点から1分とする。
- 8) ビーンバック投げは、原則として円盤投のサークルを利用し、有効試技は90度の角度をなすラインの内側に落下したものとする。足にのせてけり出すなど投げ方は自由である。
- 9) ソフトボール投げは、やり投げの規則に準じて行うが投げ方は自由である。
- 10) ジャベリックスローは、やり投げの規則に準じ、握りの部分を握り、肩または投げる方の腕の上で投げ、振り回してはならないものとする。
- 11) 車いす使用者の投てき競技(ソフトボール投、ジャベリックスロー)では円盤投サークルを使用してもよいこととする。

6 その他

- 1) 開会式終了直後の競技に出場する選手は、開会式に参加せず、ウォーミングアップおよび招集を優先することが望ましい。
- 2) 表彰の際に1位から3位にメダル、それ以外の競技者に敢闘賞の賞品を授与する。
- 3) 競技終了後は競技者全員が直ちに表彰を受け、その後、競技場東側マラソンゲート外の解散場所まで移動し解散する。ただし、次の競技の招集に間に合わない場合は、表彰を受けずに招集を優先し、競技終了後、賞品を渡すので、表彰テントにきて受け取ること。
- 4) 競技場内および表彰で水分補給できるように用意すること。
- 5) 競技中のけがの対応については、応急処置のみとする。
- 6) フィールド内・身体選手控え室・廊下等はすべて禁煙のため、喫煙はエントランスホール等、灰皿の設置してある場所で行うこと。